

全国学力・学習状況調査から見える花巻市の状況 ～平成28年度全国学力・学習状況調査結果と改善の方向性～(花巻市教育委員会)

平成28年度全国学力・学習状況調査(以下全国学調)が4月19日(火)に小学6年生(843人)、中学3年生(862人)を対象に実施され、9月29日(木)に全国の結果が公表されました。花巻市の状況をお知らせします。

平成28年度 教科調査の結果(小学6年生、中学3年生) —全国・県との比較から—

◆平成28年度教科調査平均正答率一覧 ※正答率は、整数値で示しており、小数点以下は四捨五入しています。

小学校	国語A	国語B	算数A	算数B	中学校	国語A	国語B	数学A	数学B
花巻市	73%	59%	78%	47%	花巻市	76%	67%	59%	41%
岩手県	73%	60%	78%	47%	岩手県	76%	66%	58%	41%
国	73%	58%	78%	47%	国	76%	67%	62%	44%

【小学校】おおむね好ましい傾向

国語B問題を除くすべての教科で、全国平均正答率、県平均正答率と同等の結果となっており、おおむね好ましい状況といえます。国語B問題では、県平均正答率より1%下回りましたが、全国平均正答率は上回りました。

【中学校】国語・数学ともに改善傾向

昨年度は、全国や県の平均正答率と比較すると、どの教科においても下回っている状況でしたが、今年度は、国語A・B問題で全国平均正答率と同等となり、国語B問題では県平均正答率を上回る結果となりました。数学A・B問題では、全国平均正答率を下回りましたが、県平均正答率と比べると、上回る、または同等という結果となりました。平成27年度との経年比較では、国語・数学ともに改善の傾向が見られます。

◆中学校の県比・全国比の経年比較

県比	国語A	国語B	数学A	数学B	全国比	国語A	国語B	数学A	数学B
H28	0	+1	+1	+1	H28	+1	+1	-3	-3
H27	-2	-3	-1	-2	H27	-2	-4	-6	-6
前年比	+2	+4	+2	+3	前年比	+3	+5	+3	+3

※小数点以下は四捨五入し整数値で示しているため、端数0.5以上の差については繰り上げになっています。

平成28年度 児童生徒質問調査の結果(小学6年生、中学3年生) —全国・県との比較から—

児童生徒質問紙調査は、生活面や普段の学習の様子などを、85項目の質問によって調査するものです。花巻市の児童生徒に共通して、全国や県よりも肯定的な回答が上回っている項目は以下の通りです。

- ・毎日、朝食を食べている
- ・家で、自分で計画を立て勉強をしている
- ・ノートに、学習目標とまとめを書いている
- ・算数、数学の問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている

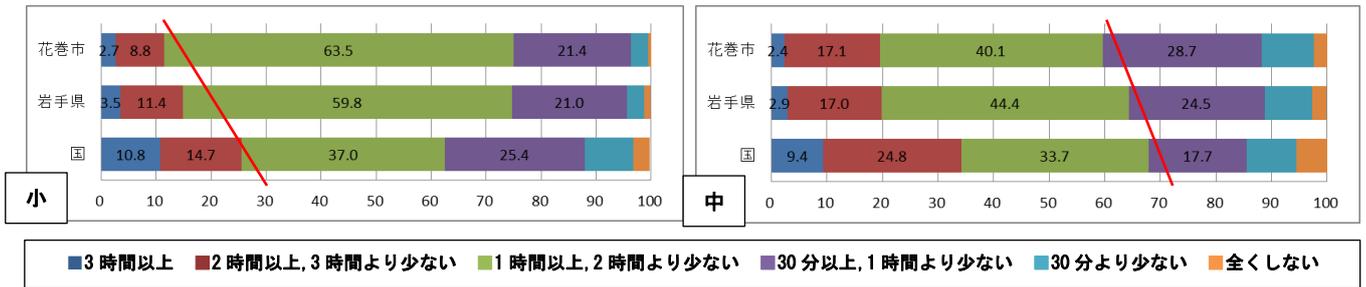
小学校では学習状況にかかわる質問項目で、中学校では生活習慣にかかわる項目で好ましい傾向がみられました。

花巻市では、「家庭学習時間が少ない」という課題が継続しています。今年度も、以下のように、全国や県に比べて、児童生徒共に家庭学習時間が短いことが分かりました。小学校では、1時間以上家庭学習に取り組む児童は多いものの、2時間以上になると下回ります。中学校では、1時間以上学習している生徒は、全国、県よりも少ない状況となっており、家庭での学習時間の確保は、継続的な課題です。

そこで花巻市では、平成27年度に策定した「花巻市学力向上アクションプラン」において、平成30年までに「1時間以上学習する児童生徒の割合」を増やし「30分より少ない学習時間の児童生徒の割合」を減らすことを指標とし

て掲げ、家庭学習の充実を図るための取組に継続的に取り組んでいます。

◆学校の授業時間以外に、普段（月～金）1日どれくらいの時間勉強しますか（学習塾、家庭教師に教わるも含む）



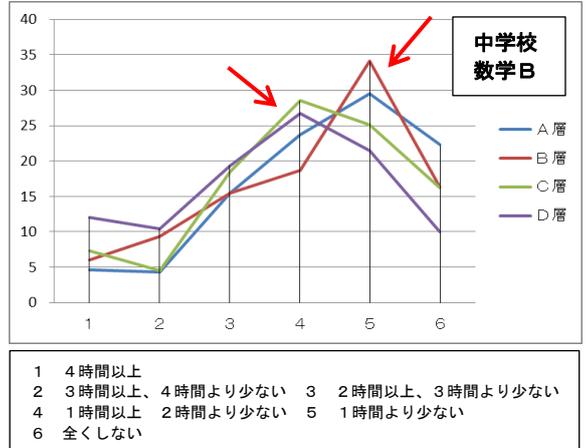
教科調査と児童生徒質問紙調査の関連からわかること —クロス集計の結果から—

教科調査において、市内の児童生徒を正答数の大きい順に整列し、人数比率により2.5%刻みで4つの層（A層～D層 ※A層が上位）に分けて、その層の人数と質問紙調査との相関を調べてみました。（クロス集計）

右のグラフは、「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。」（中学校）という質問に、数学B問題でA～D層にいる生徒が、それぞれどのような回答したかを表したものです。縦軸は、人数割合としています。

A層の生徒は、ゲームをする時間が「1時間より少ない」と回答している人数が一番多く、CD層は「2時間以上、3時間より少ない」の人数が多いということが分かります。2つの調査を組み合わせることで、学力と学習状況の相関が分かります。

◆普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか

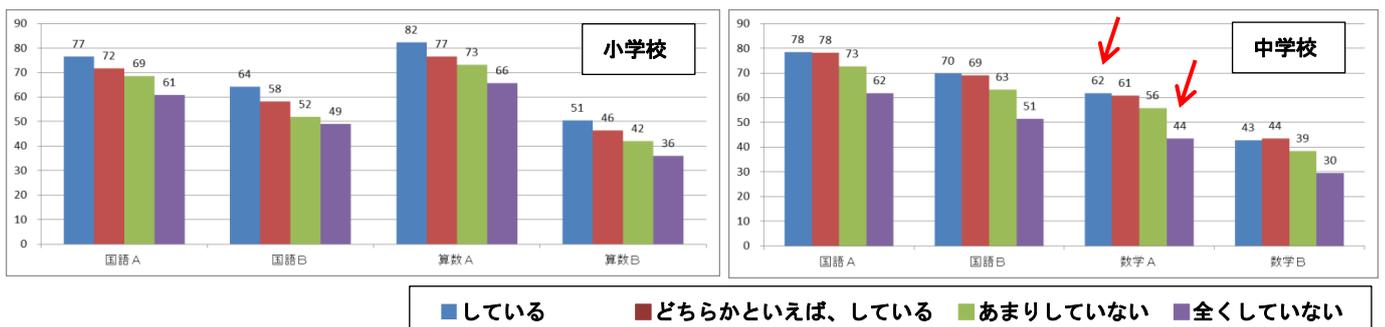


このクロス集計により、今年度の児童生徒の「生活状況にかかわる回答」では、以下の項目において、統計上、特に学力と関連性が高いという結果が分かりました。

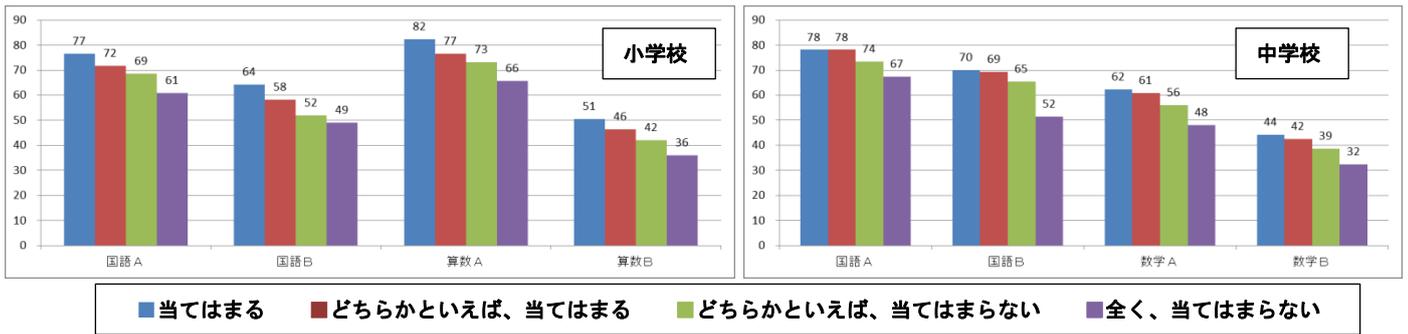
- (1) 朝食を毎日食べていますか。
- (12) 普段、1日あたりどれくらいの時間ゲームをしますか。
- (19) 家の人と学校での出来事について話をしますか。
- (22) 家で、宿題をしていますか（特に、復習の質問に学力との関連が高い結果が出ています）
- (35) 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか。
- (43) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

以下のグラフはクロス集計の表し方を変えて、質問紙調査の回答項目を色ごとに示し、それぞれの回答項目に回答した児童生徒の平均正答率を比べたものです。家の人とよく話をしていると肯定的に回答した児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向にあるという見方ができます。中学校の数学Aでは、「■している」と回答した生徒の平均正答率が6.2%に対して、「■全くしていない」と回答した生徒の平均正答率は、4.4%となっています。同様に、「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある。」と肯定的回答している児童生徒の方が、平均正答率が高いという見方ができます。

◆家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか



◆地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありますか



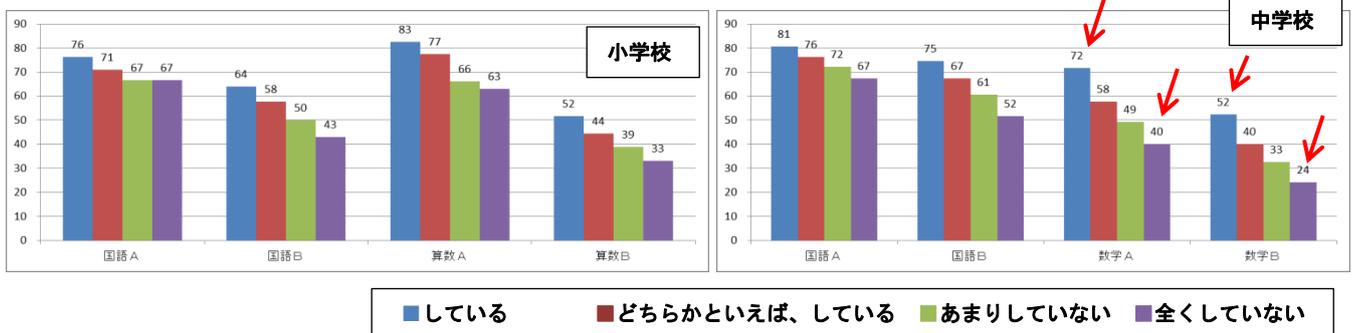
また、「学習に向かう態度にかかわる回答状況」については、多くの項目で関連性があることが分かりました。特に、以下のような回答群と学力との間に高い関連性が見られることが分かりました。

- ◎児童生徒が、学習のねらいを理解し、学習したことをまとめることができる。
- ◎進んで発言したり、グループで積極的に話し合ったりする学習をしている。
- ◎国語や算数・数学の学習が「好きだ」「大切だ」「分かる」といえる。
- ◎読書が好きだと回答している。
- ◎問題に対して、最後まであきらめず取り組もうとする。

具体的なデータを2つ紹介します。

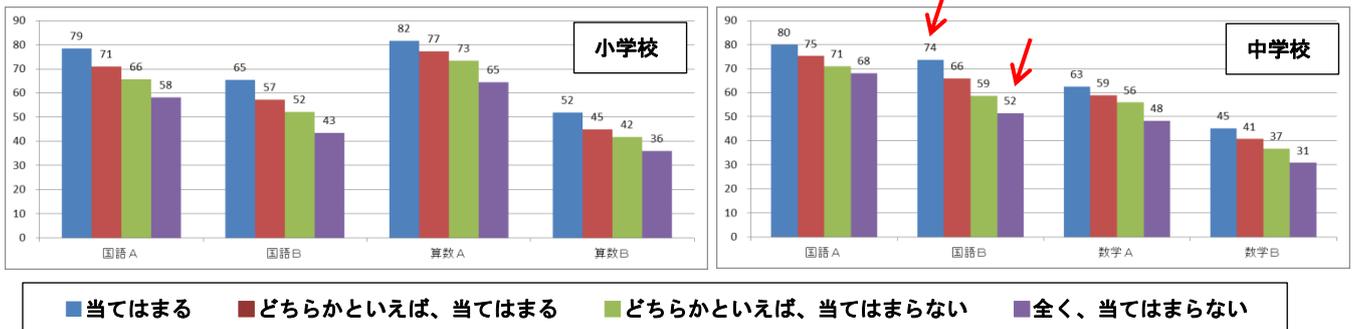
「算数・数学の問題の解き方が分からないときに、諦めずいろいろな方法で考えてみる。」という質問項目では、「している」と回答した児童生徒の平均正答率が高い傾向にあります。特に、中学校の数学では、高い関連性があるという結果になりましたが、正答率にも大きな差が見られます。

◆算数・数学の問題の解き方が分からないときに、諦めずいろいろな方法で考えてみようと思いませんか



「読書が好きですか」という質問項目では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的回答をした児童生徒の平均正答率が高い傾向にあります。中学校では、国語Aよりも国語Bの方が正答率に差があることが分かります。さらに、国語の結果に加えて、数学の結果とも高い関連性があることが分かりました。

◆読書は好きですか



平成28年度の結果から、改善の方向性を考える

今年度の教科調査の結果からは、「学力向上アクションプラン」に基づいた計画的な取組の推進により、特に、中学校で改善の傾向が見られました。

質問紙調査の結果からは、花巻市の児童生徒の良さが多くみられましたが、「家庭学習の時間の不足」については課題が継続していることが分かりました。

クロス集計の分析からは、日常の規律正しい学校生活や積極的・意欲的な授業に向かう態度、規則正しい家庭生活のあり方が、学力保障に大きく影響を与えるということが再確認できました。こうした結果をもとに、学校や家庭でどのような取組を進めていけばよいかを考えていく必要があります。

○学校では

学習への意欲を高めるために、児童生徒が主体的に考え、行動することができるような学習方法を工夫するとともに、「めあての確認」や「振り返りの活動」を的確に位置付け、児童生徒が「できた」「分かった」といえる授業への改善を、恒常的に進めていくことが重要です。花巻市では、各小中学校も「学力向上アクションプラン」を策定し、「組織体制の工夫」「授業の改善」「家庭学習の充実」を重点として、各校の課題に応じた取組を計画的に推進してきたことで、組織体制や授業の改善が図られ、改善の傾向が見られています。この成果をもとに、各校のPDCAサイクルの中に今回の結果もしっかり位置付け、来年度構想を検討していきたいところです。課題となっている家庭学習の充実については、「何を学習するか」「どのように学習するか」という観点での再確認が必要です。

今年度の結果からは、学校の規則を守ることや人のために役に立ちたいと思うことができる児童生徒の育成が、学力の保障と関連があることも明確になっています。学校教育全体を通して、相手の気持ちを尊重し、互いに力を高めあっていけるような環境を整えていくことも大切になります。

○家庭では

食事や睡眠の大切さは、常に言われてきましたが、学力との関連も明確になりました。家庭における規則正しい生活習慣の確立が求められます。また、家族との対話も重要です。保護者が上手な聞き役となって、家庭でも学校での様子を話題にしていくようにしたいものです。また、読書と学力の相関も明確にあることから、親子で読書を楽しむという習慣をつけることも、家庭で取り組める一つの方法です。休日に、一緒に図書館に出かけるなど、様々な取組方が考えられます。

家庭学習時間の不足は、継続した課題になっています。家庭での時間の過ごし方を見直し、ゲームやテレビの時間を減らしながら家庭学習の時間を計画的に生み出す必要があります。

○学校と家庭が連携して

学校で取り組んでいる内容を各家庭でよく理解することが重要です。まずは、学校通信等で学校の取組を確認していただき、学校と家庭の協力でどのようなことができるのかを考えてみるのが、課題解決への第一歩となります。

○地域や行政の支援のあり方

少子化時代をむかえ、地域がどのように児童生徒の教育にかかわっていくのかを考えるのが難しい状況になってきています。しかし、今回の調査結果では、花巻市の児童生徒は、「今住んでいる地域の行事によく参加している」「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心が高い」ということが分かりました。引き続き地域社会全体で児童生徒の成長を見守っていただければと思います。

教育委員会では、「花巻市学力向上アクションプラン」の確実な遂行を継続していきます。（花巻市のアクションプランは、ホームページ上にアップロードしていますので、ご参照ください。）また、各校の「学力向上アクションプラン」の実行を支援していきます。併せて、今年度の結果から明らかになった成果や課題の分析をもとに、解決の方策を具体化し、来年度の施策に反映させていきます。